

西国第三十三番 谷汲山

御本尊／十一面観世音菩薩 開基／豊然上人・大口大領

天台宗 華嚴寺

「谷汲踊」

山主 久保寺 美好

谷汲山華嚴寺がある揖斐川町谷汲地区には、地域住民によって伝え守られている『谷汲踊』という踊があります。昭和三十三年に岐阜県重要無形文化財第一号の指定を受け、岐阜県を代表する郷土芸能になっています。

はじまりは悪八百年前、源平合戦「壇ノ浦の戦い」で源氏が平家を滅ぼした戦

した。

この踊は揃いの衣装を着て「シナイ」と呼ばれる長さ四メートルの大きな扇状の竹細工を背負い、胸には直径七〇センチの大太鼓を抱えて十二人で踊ります。ほかに鉦鼓・法螺・横笛「拍子木」が加わって踊を盛り立てます。鳳凰の羽に見立てた「シナイ」を背負った踊り手たちの舞は勇士華麗です。

勝を祝して踊ったと伝えられています。その同時は「鎌倉踊」といって武士たちが寺社仏閣に祝事や祭礼に踊ったともいわれています。また、文久年間（一八六一〜一八六四）の大早魃の時、氏神さまに雨乞い祈願してこの踊を踊ったところ、たちまち大慈雨が降ったのでこの踊を「雨乞踊」、「豊年踊」と呼ぶようになりま

このような伝統文化も、過疎化・高齢化による担い手の減少、日常のライフスタイルの変化や多様化など様々な継承の課題があります。そこで谷汲踊を後世に残すために谷汲踊保存会が昭和二七年に発足され現在まで続いています。そしてこの伝統芸能を継承するため、地元の谷汲小学校では、谷汲踊の由来を学ぶだけでなく、保存会の方が指導し

てその成果を運動会などの場で披露しています。

この『谷汲踊』は二月一八日の豊作祈願祭のほか、春のさくらまつり、秋のみじまつりなどで上演されます。谷汲地区はみんなの手で伝え守られている『谷汲踊』をお参りの際、都合を合わせて是非ご覧になってください。

